

第四期リスクコミュニケーション事例研究 TG

電力中央研究所 桑垣玲子

北海道大学 竹田宜人

1. 目的と概要

第三期から継続して、今期は実践的なリスクコミュニケーションの評価手法の確立を主目的とし、リスクコミュニケーションの「構成要素」と評価の際の指標となる「リスクコミュニケーションの評価軸」（第二期リスクミ TG 実績）の検討を行った。特に、環境省の研究調査事業に、TG メンバーが中心となって参画したことは大きな成果である。

2. 活動状況

TG の活動として呼びかけを行った活動は以下の通りである。

（１）環境省の研究調査事業

放射線の健康影響に係る研究調査事業「効果的なリスクコミュニケーションの実践に向けた評価手法の開発・検証及び社会実装に向けた提案」（代表土田昭司・関西大学）では、2023 年度～2025 年度にわたり、本タスクグループが主任研究班の研究調査事業を取りまとめる形で参画した。

（２）日本リスク研究学会年次大会において、３件の企画セッションを開催した。ワークショップ形式では、多くの参加者にリスクコミュニケーションの評価について議論いただいた。開催した企画セッションは以下のとおり。

2022 年 リスクコミュニケーションの構成要素と評価軸を再考する～リスクコミュニケーション事例タスクグループによる構成要素の検討経過～、桑垣玲子・竹田宜人・堀越秀彦・松永陽子・藤井中・土田昭司、日本リスク学会第 35 回年次大会講演論文集(Vol.35, Nov.12-13, 2022)

2023 年 効果的なリスクコミュニケーションの実践に向けた評価手法の開発～事例収集と構成要素の検討～、土田昭司・桑垣玲子・堀越秀彦・竹田宜人・藤井中・佐田務・中山敬太、日本リスク学会第 36 回年次大会講演論文集(Vol.36, Nov.11-12, 2023)

2024 年 「ワークショップ」リスクコミュニケーション評価の視点と枠組みについて考える、土田昭司・竹田宜人・桑垣玲子・堀越秀彦・藤井中・佐田務・浦山 郁・静間健人・中山敬太、日本リスク学会第 37 回年次大会講演論文集(Vol.37, Nov.15-17, 2024)

（３）学会発表など

2023 年 9 月 効果的なリスクコミュニケーションの実践に向けた評価手法の開発 ―研究プロジェクトの問題意識と方針―、竹田宜人・土田昭司・桑垣玲子・松永陽子・堀越秀彦・藤井中・佐田務、日本原子力学会 2023 年秋の大会

2023 年 11 月 既文献におけるリスクコミュニケーションの評価対象及び手法の調査、松永陽子・桑垣玲子、日本リスク学会第 36 回年次大会講演論文集(Vol.36, Nov.11-12, 2023)

2024 年 2 月 リスクコミュニケーション評価手法の開発に関するワークショップ（関西大学高槻ミューズキャンパス、オンライン併用）

2024 年 9 月 社会受容性に影響を及ぼす事項に関する対話記録を用いた検討、竹田宜人・桑垣玲子、日本原子力学会 2024 年秋の大会

2025 年 9 月 効果的なリスクコミュニケーションの実践に向けた評価の手引きの開発について、竹田宜人・土田昭司・桑垣玲子・堀越秀彦・浦山郁、日本原子力学会 2025 年秋の大会

3. 今後の予定

環境省の研究調査事業で作成予定の「リスクコミュニケーションの評価の手引き～放射線リスクをめぐる対話を進めるために～（仮称）」を 2025 年度中に完成させ、普及活動を通じて、ブラッシュアップを図っていきたい。成果は、日本リスク学会第 38 回年次大会（2025 年 11 月）でも、口頭発表「リスクコミュニケーション事例研究 TG の活動から見えてきたもの」や、企画セッションなどを通じて発信する。また、今後は、対象事例を多様な分野に広げて適用を検討していく必要があると考えている。